

# 平成 18 年度生物産業インターンシップ報告書

## 短期大学部・生物生産技術学科

実習先 神奈川県厚木市温水 290 伊藤 文明さん

実習期間 2月6日～2月15日

実習内容

2月6日

午前中はダイコンの畝のじかがけとトンネルがけ、ホウレンソウの畝のトンネルがけ、ホウレンソウの畝の除草、午後はスコップを使用した牛糞堆肥混ぜ、篩を使用した堆肥漉し、畝へのネギの種蒔きをした。

2月7日

午前中は畝へのネギの種蒔き、キャベツをコンテナ2個分収穫、熊手・一輪車を使用したレタス残骸の片付け、ネギの畝のトンネルがけ、草削りを使用した野菜収穫後の畑の除草、午後は残骸の畝のトンネルがけ、篩を使用した堆肥漉しをした。

2月8日

午前中は篩を使用した堆肥漉し、ナノハナをかご2個分収穫、牛糞堆肥混ぜ、ビニールハウス内にて電熱温床作り、午後は東京農業大学厚木キャンパスにて肥料の pH・EC・燐酸含有量の検査、ビニールハウス内にて育苗ケースへのシシトウ・ナス・トマト用台木の種蒔き、ニンジンを一輪車1杯分収穫、赤ネギを約30本収穫した。

2月9日

午前中ははさみを使用してニンジンの茎と下部を切り落とす出荷準備、ハクサイの漬物を袋詰めする出荷準備、タマネギの芽を手で取り除く出荷準備、ナシ園にてスコップを使用した穴掘り、午後はナシ園での穴掘りの続き、ビニールハウス内にて育苗ケースへのトマトの種蒔き、ホウレンソウをコンテナ2個分収穫、ホウレンソウの古い葉を取り除く出荷準備をした。

2月10日

午前中ははさみを使用してニンジンの茎と下部を切り落とす出荷準備、キャベツをコンテナ1個分収穫、ダイコンをコンテナ2個分収穫、ハクサイをコンテナ2個分収穫、ナシ園にて一輪車を使用した選定後の枝の枝拾い、ジャガイモをコンテナ2個半収穫、午後は白ネギを一輪車1杯分収穫、ニンジン・ホウレンソウのセットを袋詰めする出荷準備をした。

2月11日

午前中は厚木市民会館裏の朝市にてキャベツ・ホウレンソウ・ナノハナ・ハクサイ・ジャガイモ・サツマイモ・サトイモ・長ネギ・タマネギ・ニンジン・聖護院ダイコン・長ダイコン・レタス・ミズナを販売、ダイコン収穫後の畝のマルチ回収、キャベツをコンテナ2個分収穫、ハクサイをコンテナ2個分収穫、ホウレンソウをコンテナ1個分収穫、ジャガイモをコンテナ1個分収穫、午後はジャガイモをコンテナ1個分収穫、篩を使用した堆肥漉しをした。

2月12日

午前中は篩を使用した堆肥漉し、午後は竹林にてトンネルがけの材料になる竹資材の運搬、篩を使用した堆肥漉し、レタス・ミズナ・ハクサイ収穫後の畝のマルチを回収し、熊手・草削りを使用した除草、ホウレンソウの古い葉を取り除く出荷準備をした。

2月13日

午前中はキャベツをコンテナ1個分収穫、ハクサイをコンテナ2個分収穫、キャベツ・ハクサ

イにテープを巻く出荷準備、白ネギを約 50 本収穫、赤ネギを約 50 本収穫、白ネギ・赤ネギを袋詰めする出荷準備、草削りを使用したタマネギ畑の畝間の除草、午後は草削りを使用したダイコン収穫後の畝・ニンジン畑の畝間の除草をし、一輪車・熊手を使用した雑草の始末をした。

2月14日

午前中はハウレンソウの古い葉を取り除く出荷準備、キャベツ・ハクサイにテープを巻く出荷準備、ナノハナを束にしてテープを巻く出荷準備、ニンジン・ジャガイモのセットを袋詰めする出荷準備、ビニールハウス内にてセル型ポットへのキャベツ・レタスの苗の移植、午後はビニールハウス内にてセル型ポットへのキャベツ・レタスの苗の移植の続きをした。

2月15日

午前中はハウレンソウの古い葉を取り除く出荷準備、ナシ園にて一輪車・剪定ばさみ・鋸を使用した選定後の枝の始末、午後はナシ園にて選定後の枝の始末の続き、ハウレンソウの古い葉を取り除く出荷準備をした。

実習効果

今回の実習でお世話になった伊藤文明さんは、露地野菜各種など全量直販をしており、また契約農家でもある。直販では、傷んだ野菜、少々小ぶりな野菜でも加工したり、朝市に出すことにより無駄になる野菜の量を少なくできることを知った。契約農家は経営の安定化、流通経路の短縮によるコストの削減、新鮮な野菜の提供、消費者に安心感を与えられるなどのメリットを持つ反面、契約先や消費者に顔が見えるというプレッシャー、責任があると思われる。しかし、そのような関係性が良いものを作ろうとする気持ち、やる気につながり、生産者と消費者がお互いを高めあうよりよい形になっていると考えられた。また、実際の農業の現場に行くことにより、その生活習慣を把握すると共に、そこには長年の経験により培われた確かな技術があり、その奥深さ、難しさを肌で感じる事ができた。

感想

実習前日は不安が尽きなかったが、今こうして実習を振り返ってみると、実に充実した体験ができたと思っている。その中でも最も印象に残っているのは朝市で野菜を販売したことである。朝早くから大勢の人でにぎわい、その中で大声を出しながら野菜を売った。たくさんあった野菜が瞬く間に売れ、驚いた。消費者は生産者との間に壁がないことで、安心して商品を購入することができるのだと思った。日中は精一杯働き、野菜の生産に携わり、その野菜を食べるということで自分の中で食に関する意識を変えるきっかけとなった。また、作業の中で迷惑をかけているという自覚が、常に自分の行動に責任を持つこと、積極的に行動することにつながった。どれも普段の生活からは学ぶことのできないものであり、貴重な経験となった。この経験をこれからの経験に活かしていきたい。

